

阻害要因		阻害要因に対する対応策	
		分類番号	内容
診療情報提供書 作成が困難	書き方が分からない	①	・入院時に、ケアマネが退院時に必要な書類を準備する (主治医がコメディカルからのサポートを得られる)
		①	・何のために必要な書類か、どのように利用するか 「具体的に」添書きをして依頼する
	必要性が分からない (施設ごとに書類が違う)	②	・施設、サービスごとに必要な書類を統一する
		③	・医療と介護の交流の場を作る
	時間がない (電子カルテであれば入力早い)	④	・電子カルテに入力が出来るようにする
		④	・ICTの活用
	書類の種類が多い	④	・書類作成の簡素化を行う
	病院の書類の流れが統一されていない (郵便・窓口で担当が違う)	⑤	・病院の窓口一覧を作る
⑤		・診療情報提供書(居宅指示書)の持参先窓口一覧を作る	
在宅時の主治医が書くのか、 退院時の医師が書くか分からない	③	・入退院調整マニュアルの浸透	
コミュニケーション 不足	ケアマネから医師に直接話を聞きにくい	③	・薬剤師、看護師などと相談してから主治医と話をする
	ケアマネと介護現場(訪問看護、訪問介護) の溝がある	③	・互いに連携するメリットを共有できる機会をつくる
	スムーズな連絡が出来ない	⑥	・良好事例や失敗事例を共有する機会を持つ
⑦		・連絡可能な時間帯がわかるようなスケジュールを作る (月水OK、月末不可、時期など)	
介護保険の知識 不足	各職種の役割、仕事内容が分からない	③	・職種理解を深める交流会の場を作る
		③	・ケアリンピックで専門職が相談できる相談コーナーを設ける
		⑧	・市民向けにもなる小冊子(特養は…、小規模は…等)を作る
苦手意識	初めての人とは話をしにくい	③	・医療と介護の交流の場をつくる
その他	自分ごととしてとらえる機会をつくる	⑨	・小中学生が介護の仕組みを知る(子どもから親へ)

部会対応
①診療情報提供書を有効活用する方法 ⇒診療情報提供書及び依頼状の記入例を作成する
③医療と介護の交流の場を作る ⇒多職種連携研修、合同会議の継続 ・入退院調整マニュアルの普及啓発の継続 ・各職種が参加しやすい日時を再検討
⑥医療・介護連携に関する事例の共有 ⇒多職種連携研修や合同会議の場を利用した事例報告
⑦医療と介護の連絡をスムーズにするための 一覧を作成 ⇒入退院調整マニュアル調査時に病院窓口の記載を依頼 病院の窓口の明確化
⑧各職種(施設)の役割を知る ⇒介護保険のパフレット(みんな笑顔で介護保険)を周知 ・PR動画などを利用した周知の方法を検討

部会外対応
②施設、サービス利用に必要な書類の統一 ⇒事業所やサービスごとにリスク管理の視点等に違いあり 事業所同士やサービス提供者同士での話しあい
④ICT活用の推進 ⇒「やまと西和ネット」や「ケア倶楽部」の普及 ・電子カルテの利用など書類作成の簡素化を検討
⑤病院の書類の流れの統一・明確化 ⇒各医療機関で対応 ・入退院調整状況調査後にマニュアルに掲載予定
⑨小中学生等への知識の普及 ⇒他課と協議が必要 ・小中学生に限らず、市民への普及啓発の継続

※「対応」について、「部会で対応するものは」白色、「部会外で対応するもの」は灰色